




製造業、非製造業とも売上高 DI 値は先月に比べ大幅に悪化

1月の情報連絡員報告によると、製造業の売上高DI値は先月に比べ20ポイント近く下落した。非製造業については先月回復傾向を示したものの、一転して10ポイント以上下落した。製造業の設備操業度も大幅に低下していることも不安材料となっている。又、東京電力の電気料金値上げに反対する声もよせられている。

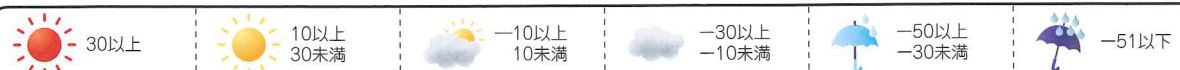
【製造業61人、非製造業、89人、計150人の集計】

前年同月比 のDI値	全産業		製造業		非製造業	
	前年同月比		前年同月比		前年同月比	
売上高	 -27.3		 -25.8		 -28.4	
在庫数量	 -11.9		 -6.5		 -17.2	
販売価格	 -15.3		 -14.5		 -15.9	
取引条件	 -18.0		 -21.0		 -15.9	
収益状況	 -42.7		 -37.1		 -46.6	
資金繰り	 -30.0		 -25.8		 -33.0	
設備操業度	 -24.2		 -24.2		—	
雇用人員	 -14.7		 -6.5		 -20.5	
業界の景況	 -38.0		 -27.4		 -45.5	

※DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標です。(−100≤DI値≤100)

DIの計算方法…増加・好転と答えた企業の割合−減少・悪化と答えた企業の割合

【例:調査数「20」のうち好転が「4」、不変が「6」、悪化が「10」とした場合…(4−10)/20×100=−30】



平成24年
1月

業 界 の 声

製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	中華麺製造業	1月としてはここ数年で最も売上が少なかった。
	製粉業	昨年の春と秋に実施された小麦の政府売り渡し価格引き上げの影響は大きく、組合員の収益悪化の要因となっている。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	ネクタイ売上の減少分をその他の商品の生産で補っている組合員も多い。
	帽子製造業	帽子の販売数は増加しているが、販売価格は安値で安定しており、大幅値引きが常態化している。
	帆布製品製造業	震災後低下した受注量は未だ回復していない。閑散期である2月を乗り切り、3月以降の需要増を期待したい。
	織物製造業	売上状況は依然として厳しいが、前月に比べやや状況は好転している。
	ニット製品製造業	受注量は変わらないものの、単価の引き下げを求められている組合員が多い。また、金融機関の審査基準が厳しくなっており、融資が滞っている。
木材・木製品	建具製造業	年明け後、仕事量が若干増加しているとの声が出て来ている。新規住宅着工件数も伸びている他、住宅のリフォーム需要も増加している。また、東北の合板工場が復旧したため、材料の供給量は震災前の水準まで回復している。
	木材製造業	原材料の不足と価格の高騰が続いている一方で、販売価格は低迷している。
印 刷	印刷加工業	回復基調にあった前年と比べ、受注実績は減少した。
	印刷業	電力料金の値上げにより収益状況がさらに悪化することや、原材料価格の上昇につながることを懸念している。
化学ゴム	ゴム製品製造業	自動車メーカーによって部品の受注量に差が出ている。また、輸出向け商品の需要は極端に少ない。
	プラスチック製品製造業	受注量は産業用製品を除き前年同月比80～90%と低調であった。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	売上、収益とも増加しているが、若干の伸びに留まっている。
	砕石製造業	放射能汚染されたコンクリートが問題となっている。都内の砕石業界に波及するとは考えられないものの、マスコミが誤解を招く表現で情報を流すことを心配している。
鉄鋼・金属	金属熱処理業	中国における建設機械販売の減少に伴い受注量が減少した企業が目立つ一方で、好調を維持している組合員もある等、格差が発生している。
	ダイカスト製品製造業	自動車の販売が伸びたため、幾分仕事量は増加した。
	缶製造業	国内外とも厳しい経済状況である中で、業界は健闘をしている。
	鋳物製造業	受注量が月によって不安定で、生産性が悪い。
	鍍金加工業	OA機器関連の受注が減少、生産過剰による在庫調整を実施している。また、円高により海外製品の調達が進み、危機感が漂っている。
	建築金物製造業	回復の兆しがあるとの報告もあるものの、全体としては先行きに対する不安感が強くなっている。
一般機械	金庫製造業	1月は売上に大きな変化はなかった。
	農機具製造業	国内の売上高は増加したが、輸出向けは減少した。
その他の製造	木工機械製造業	景況が極端に悪いと報告する組合員は無くなったが、回復状況には組合員間で差が現れている。
	スポーツ用品製造業	野球用品が国民的スポーツで、長年業界の牽引役であったが、ここ数年、売上が減少している。子供の野球離れが進み、大人の草野球愛好者も減少しているのが原因である。
	遊技機製造業	組合員28社中、売上が増加しているのは数社のみである。新製品の開発能力と資金量の格差が現れている。
	ガス圧接業	例年では稼働率が上昇する時期であるが、今年は横這い状況が続いている。

非 製 造 業

集計上の 分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	ニット製品卸売業	今冬の厳しい寒さによりニット製品の売れ行きは好調である。また、わずかながら組合員が増加した。
	理容用品卸売業	理美容店のボランタリーチェーン組織が各地で設立した協同組合を組合員とする協同組合連合会が設立された。共同購買等の経済事業を積極的に実施することが予想され、今後、理美容品の流通に影響をもたらす可能性がある。
	青果卸売業	仕入価格は前年同月比の107%となっている。
	美容用品卸売業	組合員間に売上高の格差が発生している。
	食品卸売業	原発事故の影響を受け、学校給食用の納入食品に放射線チェックが求められている。
	医薬品卸売業	薬価が改正されたことで売上は若干低下している。
	紙卸売業	営業日も少なく、需要も少ない時期ではあるが、低価格の輸入紙に押され売上は低迷した。
	電設資材卸売業	地デジ関連機材の落ち込み等により前年同月比で売上は減少した。住宅着工件数は増加しているが、住宅以外の建築件数が伸びないため、建築関係電設資材の状況は悪化している。
	玩具卸売業	正月は一年の景況を左右する重要な時期であるが、今年は可も無く不可も無くといった状況であった。
	木材卸売業	需要が回復せず、細かい注文ばかりが目立つ。また、在庫量は減少している。
	電線卸売業	電線の出荷量はわずかながら増加している。ただし、自動車向けや建設関連は伸びているものの、電器関連や通信向けの受注は低調である。
	再生資源卸売業	今年も再生資源の市況を左右する大きな要因は中国の動向であると見られている。
小 売	鶏肉・鶏卵小売業	業務用の売上は落ちこんでいるが、小売向けは順調である。販売価格は下がっているものの、仕入価格も値下がりしたため、収益状況はやや好転している。
	自動二輪車小売業	2011年の自動二輪車国内主要メーカー4社の新車出荷台数は前年比で6.8%増の40万6千台となった。2年連続で出荷台数は大幅減少となっていたが、ようやく40万台まで回復した。
	豆腐小売業	3月10日から11日にかけて開催するイベント、「豆腐フェア」の開催に向けて準備を進めている。手作り豆腐の良さを消費者にPRしたい。
	包装材料小売業	後継者問題を解決できない組合員から組合脱退を示唆する声が増えている。組合では今後、後継者問題に取り組む予定である。
	電器製品小売業	高齢者世帯には依然として地デジ未対応であったり、アナログテレビにチューナーを接続して視聴している高齢者も多い。
	眼鏡小売業	組合員の減少の歯止めがかからない。
	古書籍小売業	組合員数の増減はなかった。売上実績は前年比、前月比ともマイナスとなった。
	衣料小売業	寒さが厳しく、冬物全般の売上高は増加しているが、前年同月比の実績には達していない。
	酒小売業	組合員が大幅に減少している。
	化粧品小売業	化粧品の売上減少が組合員の景況に響いている。廃業組合員が新年早々に発生した。
	文具小売業	大型ショッピングモールが各地で乱立しているが、地域商業に与える影響が大きい。消費者の購買意欲は減退しており、小売店の売上状況は厳しい。
	自転車小売業	寒さが厳しく、自転車小売にとっては厳しい状況ではあるが、組合員の売上は前年より伸びている。
	食品小売業	売上高の減少については、厳しい寒さの影響が大きいと思われる。また、低価格指向が一層強まっている。
	米穀小売業	放射能汚染の風評被害の影響もあり、米の流通量が例年より少ないため、仕入価格が2割ほど高騰している。一方、生産者の直売が増えているため、売上は低調である。今後、業界として仕入方法を研究する必要がある。
	家具小売業	展示会を実施しても売上の増大に繋がっていない。
青果小売業	天候の影響により青果物は高値で推移していたが、1月は積雪があったことでさらに価格は高騰した。	
商店街	銀座	春節の休暇で中国人観光客が多数来街した。各店舗も中国人スタッフを配置し対応した。

商店街	秋葉原	春節休暇により中国人観光客の来街者が増加した。また、フレッシュマン需要に対応するため各組合員は準備を開始している。
	目黒	収益等、改善の兆しを見せている業種も現れている。ただし、格差も増大しているのが実態である。
サービス	飲食業	宴会需要が減少している。また、大手チェーンの安値営業に対して個人店舗では対抗することができない。
	複写業	震災以降、減少した需要が依然として回復していない。年度替わりに発生する官公需を期待しているが、価格競争に拍車がかかり、利益に結びつかない状況にある。
	廃棄物処理業	杉並の清掃工場が建て替えとなり、再開までには4年以上の時間が必要となっている。また、各清掃工場では震災被災地の廃棄物の受入準備が進んでいる。
	公衆浴場業	A重油は高値安定が続き、今後電力料金やガス料金の値上げも予想されることから、現状の入浴料金を維持することが困難となっている。
	自動車整備業	定期点検整備の促進及び長期使用車の点検マニュアルを作成し、故障や不具合を未然に防ぐ取り組みを講じる必要がある。
	クリーニング業	一年を通じて1月は業界にとって最も厳しい閑散期であるが、本年は例年にも増して仕事が少なかった。顧客獲得の為、様々な戦略を考えている組合員もいるが、大部分の組合員は職人気質のため経営手法を変えることが難しい。
運輸	貨物自動車運送業	円高等の影響で輸出用貨物が減少している。 全体的には荷動きは悪くない。ただし燃料費の高止まりと運賃の低下から収益率は悪化したままである。
	港湾運送業	東京港の貿易額は前年比で5.8%増加した。具体的な輸出品目は、中古資材や産業機械等が増加している一方、化学製品や自動車部品が減少した。輸入品目では電気機械、衣服、食品等が増加し、紙やパルプが減少した。
建設	水道工事業	東日本大震災の復興のため、ゼネコン等とともに被災地に赴いている組合員もいる。
	内装工事業	受注回復の目処が立たず、疲労感が高まっている。

✓ 行政庁・中央会に対する主要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主要望事項
繊維・同製品	帆布製品製造業	増税が議論されているが、国民に対しその理由を明確に説明していただきたい。また、増税の実施時期についても、景況を考慮して十分に検討していただきたい。現状のままでは増税については反対である。
鉄鋼・金属	金属熱処理業	電力料金の値上げは、電力を大量に消費する金属熱処理業にとって影響が大きすぎる。救済策を是非講じていただきたい。
	鍍金加工業	電力料金の値上げは電気鍍金業の存続を危うくするものであり、断固反対する。
	建築金物製造業	景気浮揚策の実施を是非ともお願いしたい。
木材・木製品	木材製造業	震災復興関連業種の好景気が伝えられているが、全体的な経済の底上げの為に政策を実施していただきたい。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	マスコミで「汚染コンクリート」といった表現により業界全体のイメージが損なわれている。言葉の使い方には十分注意をいただきたい。
その他の製造	ネームプレート製造業	電力料金の値上げは業界として許容できない。
小売	豆腐小売業	景気対策が一番の課題である。商店街の活性化対策も必要である。
	文具小売業	多くの課題が先送りとなる中で、消費税の増税のみが先行している。このままでは国内需要の冷え込みに拍車をかけることになる。
	青果小売業	消費者は青果の放射能汚染に対し敏感になっている。正確な情報を伝える必要があるが、国や都も支援していただきたい。
	木材小売業	国民の不安感に繋がる年金や消費税等の問題を早急に解決していただきたい。
	自動二輪小売業	首都高の料金体系が変更されたが、車体の小さい二輪車については料金を引き下げていただきたい。
商店街	赤坂	消費税率は現状のまま維持していただきたい。
サービス	複写業	組合員の減少が続いている。組合の活性化のための助成措置を講じてほしい。